

音戸大橋（太刀掛呂山）

作者 明治四十五年広島県呉市広町に生まれる。名は重男、呂山は号。幼少より詩を好み、呉江吟社・山陽吟社を創立し主宰となる。

鉄橋 架し 得たり 海山の 雄なるに

解説 広島県呉市の本土と倉橋島を結ぶ道路橋を詠った詩。

凌駕す 平公 開鑿の 功

語釈 ※音戸大橋Ⅱ広島県呉市の本土と倉橋島を結ぶ道路橋。

望断す 舟車 交錯の 際

※凌駕Ⅱ他のものを追い抜いてその上に立つこと。※平公Ⅱ平清盛のこと。※開鑿Ⅱ土地を切り開いて道路や運河などを通す事。※望断Ⅱ見えなくなるまで見送る。※交錯Ⅱいくつものものが入りまじること。※冲天Ⅱ天高くのぼること。※孤影Ⅱ独りぼっちでももの寂しそうに見える姿。

冲天の 弧影は 長虹に 似たるを

通釈 音戸大橋の鉄橋は海、山に跨がり、清盛公の開鑿の功績のお陰である。船と車の交錯の際、音戸大橋の影は長い虹のようにも見える。